

共通取組 重点取組		平成27年度		総括
		具体的取組	自己評価結果	
1	確かな学力	子どもたちが思いをもって、主体的に学び、互いに認め合い、学習を深めていけるような主体的・協働的な学習を追究し、学習意欲と思考力を育てます。児童の実態把握に努め、どの学力層にも応じた指導の在り方をさらに探っていきます。	学状調査等のデータをもとにした学力向上プランのもと5つの具体的な手立てを講じて日々の授業改善に取り組んだ。子どもが自らの課題を調べまとめ表現する学習、グループ学習や子どもによる授業進行等を通して、主体的・協働的な学習を追究した。 <u>さらに主体的に思考を深めていけるような学習課題の設定や思考力育成を研究し、どの学力層にも応じた指導の手立てを講じていく。</u>	A B C D
2	豊かな心	「大きな心をもつ緑園の子」「自尊感情の向上」の具体化に向けて人権教育の強化を一層図っていきます。子どもたちの主体的な活動を中心として自己有用感を高め、自分も相手も大切に育てる心育てる取組をさらに充実・発展させ、お互いを尊重し、まちを愛する子どもを育てます。	「けが0プロジェクト」「人権月間」を核とした委員会活動の活性化が進んだ。「全校なかよし活動」を中心に異学年の交流活動が進んだ。一人ひとりの自尊感情の向上は難しく、子どもたち同士互いの優劣をつける傾向がある。「 <u>自尊感情の向上</u> 」の具体化に向けて、「 <u>自立」「自律</u> 」のできる子どもを自指して、授業づくりも併せて学校生活全体での取組を一層図っていく。	A B C D
3	健やかな体	学校保健委員会での話し合いを核として児童自身による健康的な生活に向けての取組を進め、児童の問題意識をもとに活動の充実を図ります。「なわとび」を主とした体力向上や「けが0プロジェクト」	なわとびによる体力向上に加え、マラソンにも取り組むことができた。「けが0プロジェクト」による子どもたち自身による問題解決的な「健康な体づくり」の活動がみられ、体力だけではなく自分たちの生活態度・生活習慣の形成に広がりを見せた。 <u>来年度も児童の問題意識をもとに主体的な活動ができるようにする。</u>	A B C D
4	教育課程 学習指導	多教科での学校司書連携等情報活用能力を高め、自主的に学習に取り組むスキルを身に付けます。教科担任制・思考フレーム活用、子ども司会等の学習形態・学習方法の工夫による学習意欲・思考力・判断力・表現力のさらなる育成をめざします。「横浜の時間」のカリキュラム化を図り、体系的に、体験重視の学習の発展や活用型授業の創造を図ります。オーストラリア姉妹校交流中心とした交流活動について取組を発展させ、カリキュラムに生かしていきます。個に応じた指導を追究し「指導と評価の一体化」に結びついた授業づくりに日常的に取り組めるようにすることで学習評価の信頼性・妥当性を高めています。	「主体的に考えを深める子」の育成をめざして、めあてとふりかえりを大切に学習や目的を明確にした情報活用を学校司書と連携して取り組んだ。国語科では取組の成果をカリキュラムとして整理することができた。「横浜の時間」と教科学習を結びつけて問題解決学習に取り組むことができた。姉妹校交流を中心とした外国語活動カリキュラムを構築した。緑園音楽祭を中心として音楽の意欲と表現力が高まった。個に応じた指導を心がけることで「指導と評価の一体化」に結びついた授業づくりに日常的に取り組むことができた。PDCAサイクルを意識した学習指導を教職員で共通理解して臨んだ。 <u>今年度の取組を検証し、さらに手立ての工夫による学習意欲・思考力・判断力・表現力のさらなる育成をめざす。「横浜の時間」のカリキュラム化を図り、体系的に活用型授業の創造を図る。</u>	A B C D
5	特別支援 教育	「特別支援」から「個に応じた支援」へとさらに意識を高め、どの子にとってもわかりやすい学習支援のあり方を検討していきます。個別支援学級では、保護者との共通理解のもと、個別教育支援計画を作成し学習を進めます。「個別支援学級」への区別のない学校づくりをさらにめざしていきます。	きめ細かく個の状況を捉え、専門機関やカウンセラーとの綿密な連携も図りながら、常に個に応じた支援を心がけた。個別支援学級の全校や地域への発信や活躍の場が増え、自信をもって活動できるようになってきた。「 <u>特別支援</u> 」から「 <u>個に応じた支援</u> 」へとさらに意識を高め、 <u>どの子にとってもわかりやすい学習、互いに尊重し合える学校づくりをさらにめざしていく。</u>	A B C D
6	地域連携	学校・学年だより、ホームページを充実させ、わかりやすい情報発信をさらに心がけていきます。栽培体験活動・読み聞かせ・クラブ活動等で、学校教育ボランティアの教育力を活用します。教育課題を地域と共有し、さらなる地域との協働ができる体制を整えていきます。(PTAも含めて)地域行事に積極的に参加し、子どもの地域参画意識を向上させます。地域と連携して、児童の安全見守りを強化します。	「ガッツ緑園(地域でもがんばる)」というスローガンのもとに子どもたちが自覚をもって地域と積極的にかかわった。子どもたちの「地域参画力」は確実に向上した。キッズクラブの地域の方々によるサークル立ち上げ等、多面的な地域連携が進んだ。生活科はじめ教科学習での地域との連携による単元開発も進めることができた。 <u>さらなる地域との協働ができる体制を整えていく。(PTAも含めて)</u>	A B C D
7	研修研究	授業を伴う校内重点研究の充実を図り、すべての教員の授業力や学級経営能力の向上を目指し、授業改善につなげます。重点研から日々の授業改善へと意識を高め、チームで楽しく研鑽を積んでいきます。	重点研だけではなく、毎時間の授業で改善を図っていくという共通理解のもと、常にどの教科でもよりよい授業をめざしての研鑽を積む学校文化が育ってきた。 <u>さらなる意識向上を心がけ、チームで楽しく研鑽を積んでいく。</u>	A B C D
	人材育成 組織運営	校内重点研究で授業力の向上をめざすと共に、進んで他校の研究発表会に出向き研鑽を積みまます。部会の内容精選、校務分掌の整理を図り、小人数での新組織を整えていく。小規模校の強みを教職員で共有し、それを生かした学校運営をしていく。学年2名体制において、どちらも学年主任・チームで対応という自覚をもって級外と連携をとりながら取り組んでいく。	研究会参加や市研究会の授業発表を引き受ける等、積極的に取り組むことができた。部会の内容精選、校務分掌の整理を図ったが減少する一方の教職員組織でどのように創造的な学校運営をしていくかは引き続き本校の大きな課題である。 <u>小規模校の強みを教職員で共有し、それを生かした学校運営をしていく。学年2名体制において、どちらも学年主任・チームで対応という自覚をもって級外と連携をとりながら取り組んでいく。</u>	A B C D
	小中一貫教育 推進 ブロック内相互評価 結果	子ども司会型授業や資料活用、グループ学習といった本校の子どもたち主体の意図的な取組はとてもよい。認め合う学習が「自己有用感の向上」につながる。情報活用能力を身に付けることは今後の情報社会を生き抜く力につながる。ブロックとして取り組んでいくことで子どもたちに力がついていくと思う。学力の差にどのように応じるかは課題である。漢字・計算といった基礎的な学力の定着が必要である。学校図書館連携等がブロック内で進めていくことができるとなおい。		
	学校関係者 評価結果	子どもたちが地域でよく挨拶ができるようになってきた。地域連携が進んでいる効果である。姉妹校交流はこれからの子どもたちにとってもよい取組である。保護者にどのように学校の教育活動に協力してもらうかが課題である。土曜日活用を地域ぐるみで考えたい。		
	評価結果に対する 学校の見解	前向きな取組について、姿勢を評価していただいていることを励みにこれからも改善の姿勢をもちたい。本校の課題をより明確につかみ具体的な手立てを講じることができた。地域連携は確実に進んでいるので、さらに小中連携・小中連携を進め、保護者の理解を図っていきたい。		
	学校経営 中期目標 達成状況	学状の結果を有効に活用しながら、より教職員が主体的に学校経営に関わり、児童の育成に向けてチームとして共通理解して取り組むことができた。本校の児童の課題をより明確にして、「自尊感情の向上」を大テーマに具体的なアクションをPDCAサイクルにのせて展開することができた。地域との協働が進み、子どもたち自身が「地域参画」の意識をもって積極的に地域に関わったことは大きな成果であった。保護者との協働、小中ブロックでの具体的な取組に至っていないことが課題である。28年度は、「学校運営協議会」を立ち上げる予定である。地域や他校種の学校とともに学校と地域で連携してどのように子どもを育てていくかを考えて行きたい。その際に保護者にどのように「自分意識」をもってもらうかが大きな課題である。		

